

令和5年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる教育を推進する」 ①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てキャリアの充実を図る ②生徒の主体的で深い学びを促し、他者と協働しながら課題解決を図ろうとする能力を養う ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める	今年度の 重点目標	「教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う」 地域産業を担う専門人材の育成 【自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進】社会で必要となる素養と規範意識を高める 【協同の学びで自他を高める教育の推進】コースに応じた地域連携と地域貢献を積極的に行う 【学びを創造する力を高める教育の推進】クラウドブック等を活用した効率的な学習環境整備を進める
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					最 終 評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目 学校評価アンケート等評価基準 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 自立を促す キャリア推進 形成能力を	○生徒一人当たりの取得資格数 A1.7件以上 B1.5件以上 C1.2件以上 D1.0件以上 E1.0件未満 ○就職内定率(県内)、進学合格率(県内) ○自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 ○掃除が行き届き、すがすがしい環境と答えた生徒・教員の割合 ○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒・保護者の割合 ○生徒の生活状況や学習状況等について保護者と連携していると答えた保護者の割合	○資格検定は概ね予定通り実施 合格率63.5%(R4) 一人あたり平均取得資格数1.62件(R4) ○高度な資格検定にも挑戦し取得者増(スーパー農林水産業士、アグリマスタブ、ラナ、電気工事士等) ○就職内定率(3月)100% 県内84.6% 進学合格率(3月)100% 県内56.4% ○インターシップ・企業等見学は予定通り実施 ○自分の適性や進路希望を生かす進路指導 生徒 H30 78.1%→79.3%→82.5%→85.5%→R4 84.4% ○掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒 H30 62.8%→62.8%→68%→60%→R4 64.6% 教員 H30 45.8%→52.7%→50.9%→58.4%→R4 62% ○服装や身だしなみが整う 生徒 H30 90.4%→92%→90.6%→84.4%→R4 81.8% 保護者 H30 59.3%→67%→67.3%→61.6%→R4 58.4% ○Googleクラスルーム・マチコメール等を活用し連絡徹底 ○保護者と連携 保護者 84%(R4)	○高度な資格検定に挑戦する生徒の増加 ○生徒一人当たりの取得資格数 1.7件以上 ○就職内定率 100%、進学合格率 100% ○インターシップや企業・上級学校見学等を通してふるさとで働き学ぶ意識を高める ○進路学習活動を通して勤労観・職業観を高め、自らのキャリアを設計する基礎を育てる ○ともに学ぶ喜びと「学ぶ責任」の意識を高め、適切な学習環境を自らつくる ○規律ある学校生活を通して「見られる自分」を意識し、規範意識・社会の一員としての自覚を高める ○保護者や地域との連携を推進することで、生徒とともに育てる体制を整える ○部活動の振興を図ることで心身の健全な育成を目指し、学校生活を豊かで充実したものにする	○ICT等活用した指導や補習、再受検指導で合格率向上を目指す ○上位資格取得に向け早期の指導体制を確立 ○インターシップ、企業・上級学校見学は実状に合った実施を目指し実施時期・内容等検討 ○進路学習プログラム、キャリアパスポート等活用した計画的・系統的な進路LHRを実施 ○適性検査等により要支援生徒を把握し個別支援体制を構築、校内で情報共有 ○教室は可燃ゴミ箱のみ設置しゴミの減量化に努める ○授業開始時など日常的に全職員で規律を呼び掛け、保護者連絡を密にし一層の協力・信頼関係を構築 ○Googleクラスルーム・マチコメールの有効活用 ○生徒会活動や部活動、ボランティア等生徒が主体的に取組めるよう支援	①資格検定は概ね予定通り実施 合格率62.2%(2月)・・・R4は63.5% 1人当たり平均資格取得数1.6件(2月) ②高度な資格取得にも挑戦し取得者増加 ○インターシップ・企業等見学は予定通り実施 ④就職内定率100%(3月)うち県内割合82.7% 進学合格率98.9%(3月)うち県内割合50.5% ⑤適性や進路希望を生かす進路指導 生徒82.3%(R4 84.4%) ⑥生徒ポータルサイトに求人票を公開し、1・2年生の進路意識を高めた ⑦掃除が行届き、すがすがしい環境 生徒58%(R4 64.6%)、職員66.7%(R4 62%) ⑧工夫することでゴミ減量、冷房費削減 ⑨さわやかマナーアップ、交通安全運動等では総務部、PTA、生徒会と連携し実施 ⑩服装・身だしなみ整う 生徒89%(R4 82%) ⑪授業参観日4回実施(Googleフォーム活用) 保護者57名参加、月1回の開催が定着化 ⑫部活動の活性化に向け部紹介、体験等を実施	B	①合格に向け検定問題の研究・工夫(ICT活用・補習・社会人講師等)、不合格者対応等 ②国家資格等高度な資格検定への積極的な受検を推進 ③インターシップの体験先は生徒の進路選択の参考になるよう選定 ④就職試験への体制構築を含め、次年度に向けた進路プログラムの練直し ⑥Handy進路指導室の有効な活用を検討 ⑦掃除用具の補充、リース機増量、ワックスかけ等掃除しやすい環境を継続 ⑧TEASⅡ更新審査(R6.10月)合格を目指す ⑩授業規律、服装髪型、遅刻等について校内連携、保護者協力を得ながら継続指導 ⑪授業参観日は来年度も継続予定 ⑫部活動加入率向上に向けた方策を検討
2 協同の学びで 自他を高める 教育の推進	○地域と連携して学校外の教育力を積極的に取り込んでいると答えた教職員の割合 ○湖陵フェスタ来場者アンケートで鳥取湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合 ○人権や命を大切にすることを育てる教育が行われていると答えた生徒の割合 ○学校は生徒の心身の悩みにかかわる相談について適切に対処と答えた保護者の割合 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」の視聴状況	○湖陵フェスタは縮小開催(来場約500名) ○地域交流事業はほぼ予定通り実施、報道で紹介してもらうなど学校PRに繋がる ○地域と連携、学校外教育力活用 教員 H30 79.6%→90.9%→80.3%→92.3%→R4 94% ○人権教育講演会は生徒の能動的な参加が見られ生徒アンケートも高評価 ○人権や命を大切にしている教育実践 生徒 H30 73.1%→79%→79.9%→92.3%→R4 81.7% ○2年QUアンケート代替「湖陵版よりよい学校生活のためのアンケート」はSCと分析し生徒面談等に繋げる ○個別の教育支援計画作成の研修会を初開催し職員間で書き方等を共有 ○新規製作した学校紹介DVDやホームページ等を活用し積極的に学校情報を発信 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」の視聴状況は微増	○学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す ○近隣学校や地域に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで、生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする ○地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる ○障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む ○特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う	○湖陵フェスタは来場者が参加しやすく、より楽しめる体験など実施内容等を検討 ○本校の教育資源を活用し地域との交流事業を継続・推進、新規連携先の開拓等も検討 ○保護者が学校行事に参加しやすいよう工夫(PTA総会・湖陵フェスタ時に講演会開催等) ○クラスの実情に即した人権教育LHRに取組み、人権侵害や差別を許さない集団づくりを実践 ○ケタイナ安全使用講習会等SNS関連の使用ルールやマナーについて継続的に学習・指導 ○QUアンケート結果等を踏まえた適切な対応、外部機関との連携、教室環境の工夫等推進 ○生徒の教育相談室利用ルールを明確化し運用 ○学校紹介DVDを製作し中学校説明会等で活用 ○「鳥取湖陵高校チャンネル」(YouTube)や学校ホームページ、Instagram等の活用による積極的な情報発信を継続	①湖陵フェスタは概ね通常規模で開催し盛況 来場者数812名(R4 約500名) ②地域と連携、学校外教育力を活用 教員87%(R4 94%) ③同窓会名簿の発刊(R6年2月) ④3年LGBT研修会は貴重な学び、湖陵フェスタでの手話講演会に保護者が多数参加 ⑤人権や命を大切にしている教育実践 生徒79.3%(R4 81.7%) ⑥インターネット安全使用講習会、薬物乱用防止教室等生徒指導関連の行事は計画通り実施 ⑦各種アンケート(QU、心とからだ、いじめ等)は予定通り実施し生徒面談・研修会等に活用 ⑧生徒の心身の相談に適切に対処 保護者84.3%(R4 80.3%) ⑨相談室利用ルールに沿った運用、情報交換会で生徒の情報共有 ⑩生徒保健委員会の生活習慣改善に向けた積極的な取組(青陵祭発表等) ⑪学校紹介DVD更新、学校HPにスクールビューー開設	A	①湖陵フェスタは形骸化しないよう内容・形態を再検討 ②今後も地域連携による学習成果を校外へ発信、連携が期待できる企業・施設・上級学校等の開拓 ④公開人権教育LHRや研修会への保護者参加増に向けPTAとの連携を推進 ⑥警察等外部機関と連携継続 ⑨非常勤講師との共通理解の場を検討、日常的な情報交換会の開催(週1定期開催)の検討 ⑩生徒の保健活動をPTA広報誌や学校HP等で紹介 ⑪学校全体でタイムリーな情報発信
3 学びを創造する 力を高める 教育の推進	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 ○授業改善に向けて日々の取組を行うと答えた教員の割合 ○基礎力診断テストの結果が入学時より向上する生徒の割合 ○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 ○タブレット型端末を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 ○タブレット型端末の活用状況調査結果	○校内公開授業実践は32回(2/3時点) ○授業がわかりやすいように先生が工夫 生徒 H30 69.6%→73.2%→80.7%→79.2%→R4 81.3% ○授業改善に向け日々取り組む 教員 H30 71.2%→81.8%→82.2%→84.6%→R4 90% ○基礎学力定着対策として朝トレや教科連携授業、授業動画配信等を実践 ○基礎力診断テストを年2回から3回に変更 4月より8月に向上した生徒割合 1年43.6%(R3 51%) 2年72.1%(R3 75%) 3年69.4%(R3 62%) ○家庭学習ほぼ毎日 生徒 H30 24.6%→25.9%→31.3%→30.2%→R4 38.6% ○観点別学習状況評価は概ね順調に運用 ○Google研修会(KickstartProgram)、ICT活用公開授業研究会等で職員のスキルアップ ○校内Wi-Fi(アクセスポイント)等Chromebook・iPadの学習環境を整備 ○1年のChromebookは全教科で活用 ○端末で授業に関心、主体的取組 生徒 H30 67.7%→69.7%→69.2%→68.4%→R4 69.7%	○実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する ○ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける ○BYAD「一人一台端末」を有効に活用し、効率的な学習環境を実現する ○協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く ○専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す	○校内公開授業実践・授業参観を継続実施 ○基礎学力の定着・学び直し対策として朝学習・放課後等の学習会を継続 ○基礎力診断テスト等校外模試の実施と活用 ○教科担任連絡会を適宜開催し授業状況等を職員間で共有 ○観点別学習状況評価の研究・改善を進め、適正な運用を目指す ○本校ICT活用ポリシーに則した利用方法で、一人一台端末の有効活用を推進 ○生徒の興味関心・意欲を引き出せる効果的なICT活用教材を全教科で研究 ○ICT活用研修会、ICT活用授業アドバイザー招へい事業等で授業力向上を図る ○教職員のタブレット端末の日常的な活用の推進(共用タブレット型端末貸出簿の管理等) ○GoogleWorkspaceによる課題配信等で家庭学習時間の確保につなげる ○専門教科と共通教科の授業連携を継続実施	①校内公開授業実践35回 ②各科を中心に個別の進学対応(小論文指導等)を実施 ③基礎力診断テストが4月より8月に向上した割合1年51%(R4 43.6%) 2年74.6%(R4 72%) 3年69.7%(R4 69.4%) 結果は下降傾向(全国平均下回る) ④新評価実施2年目、各科で試行錯誤しながら実施 ⑤タブレット型端末で授業に関心、主体的に取り組む77.9%(R4 69.7%) ⑥各教科・分掌でICT活用を推進(小テスト、課題配信、アンケート等GoogleWorkspace利用)支援員の協力が効果的だった ⑦家庭学習ほぼ毎日 生徒36.9%(R4 38.6%) ⑧先生は授業がわかりやすいように工夫 生徒82.8%(R4 81.3%) ⑨授業改善に向け日々取り組む 教員90.7%(R4 90%) ⑩物理基礎など専門教科と共通教科が連携、基礎学力定着に向け実践	B	①授業実践・参観の積極的な呼び掛けを継続 ②個別添削指導を充実、国公立大学希望者への進学支援のあり方の見直しと体制の構築 ③基礎力診断テスト結果を共有し下位層対策を検討 ④新学習指導要領完成年度である令和6年度に捻出する必要あり ⑤⑥ICT活用に関する研修会の実施、デジタル教科書の研究、新システム(学習ポータル「まなびポケット」)導入に向けての検討 ⑦～⑩課題未提出者へ学年・分掌で連携した指導、長期休業中の課題検討、Chromebook継続活用、他教科との連携授業、少人数授業・TT授業の継続、朝トレ・放課後の学習会等
4 の業務改善	○時間外業務時間数(教職員月平均) H30 18.0→14.1→11.5→11.1→R4 13.6時間 ○年休取得平均 14.5日(目標15日) ○部活動の精選等は継続検討 ○学事システムの日々入力導入で業務負担減 ○職員チャットの積極的活用で連絡等の効率アップ	○時間外業務時間月平均を昨年度以下とする ○適切な業務改善を継続	○無理のない行事計画(成績締切・会議等)を継続的に検討 ○年休等が取得しやすい環境づくりの推進 ○部活動の精選を中・長期的に検討 ○学事システムによる業務の効率化を推進 ○教職員連絡の端末配信の効率化を推進	①時間外業務時間数(教職員月平均) 11.4時間(2月時点) R4 13.6時間 ②GoogleWorkspaceの活用(教職員間の連絡・情報共有、生徒への課題配信・アンケート等) ③校内文書共有データベースの導入(業務の迅速化及び公文書管理の適正化)	B	①時間外業務は減少傾向だが、個々の多忙感の解消に繋がっているか検証が必要 ①学事システムの操作手順をマニュアル化、「百問練乱」の活用等により業務の効率化	

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 60%程度 【40%程度】 【30%程度】